



## 薬剤部窓口における退院処方について

薬剤部の外来窓口は、外来処方薬や外来医材の受け取りに加え、医薬品に関する相談の場として多くの外来患者に利用されています。最近、退院される患者へ退院処方を直接交付するよう依頼されることがありますが、これにより外来患者への対応に支障を来しています。また、病棟からの連絡の行き違い等により、退院患者への退院処方薬の交付が大幅に遅れることで患者サービスの悪化が懸念されます。そのため、退院処方では従来通り、病棟で直接交付頂きますようお願い致します。なお、服用開始前日の 13:00 までにオーダされた退院処方は、前日中に病棟に送付することとしておりますので、ご利用ください。

## 効能・効果追加のお知らせ

### ◎オプジーボ点滴静注20mg、100mg(一般名:ニボルマブ(遺伝子組換え))<抗悪性腫瘍剤>

【効能・効果】根治切除不能な悪性黒色腫

化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者の場合

【用法・用量】通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回3mg/kg(体重)を2週間間隔で点滴静注する。イピリムマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回1mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。その後、ニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回3mg/kg(体重)を2週間間隔で点滴静注する。 ※下線部を追加

### ◎ゼルヤンツ錠5mg(一般名:トファシチニブクエン酸塩)<ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤>※緊急購入薬

【効能・効果】中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限り)

【用法・用量】導入療法では、通常、成人にトファシチニブとして1回10mgを1日2回8週間経口投与する。なお、効果不十分な場合はさらに8週間投与することができる。

維持療法では、通常、成人にトファシチニブとして1回5mgを1日2回経口投与する。なお、維持療法中に効果が減弱した患者では、1回10mgの1日2回投与に増量することができる。また、過去の薬物治療において難治性の患者(TNF阻害剤無効例等)では、1回10mgを1日2回投与することができる。

### ◎ボトックス注用50単位、100単位(一般名:A型ボツリヌス毒素)<A型ボツリヌス毒素製剤>※(100単位)緊急購入薬

【効能・効果】痙攣性発声障害

【用法・用量】通常、成人にはA型ボツリヌス毒素として以下の用量を内喉頭筋に筋肉内注射する。

内転型痙攣性発声障害

初回投与:片側の甲状披裂筋に2.5単位を投与する。

再投与:前回の効果が減弱した場合には、片側又は両側の甲状披裂筋に再投与することができる。ただし、3ヵ月以内の再投与は避けること。なお、症状に応じて投与量を適宜増減することができるが、片側あたり2.5単位を超えないこと。

外転型痙攣性発声障害

初回投与:片側の後輪状披裂筋に5.0単位を投与する。

再投与:前回の効果が減弱した場合には、片側の後輪状披裂筋に再投与することができる。ただし、3ヵ月以内の再投与は避けること。なお、症状に応じて投与量を適宜増減することができるが、5.0単位を超えないこと。

## 禁忌・警告追加のお知らせ

### ◎グリベック錠100mg(一般名:イマチニブメシル酸塩)〈抗悪性腫瘍剤〉

【禁忌】ロミタピドを投与中の患者

【併用禁忌】ロミタピド(ジャクスタピッド)

※下線部を追加

### ◎ゼルヤンツ錠5mg(一般名:トファシチニブクエン酸塩)〈ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤〉※緊急購入薬

【警告】潰瘍性大腸炎では、本剤の治療を行う前に、少なくとも1剤の既存治療薬(ステロイド、免疫抑制剤又は生物製剤)の使用を十分勘案すること。また、本剤についての十分な知識と潰瘍性大腸炎治療の経験を持つ医師が使用すること。

※下線部を追加

## 製造販売承認承継のお知らせ

### ◎ポビドンヨードゲル10%「明治」(一般名:ポビドンヨード)〈外用消毒剤〉

製造販売承認承継:日東メディック株式会社→Meiji Seika ファルマ株式会社(2018年5月16日以降)

## 包装変更のお知らせ

### ◎ウルティプロ吸入用カプセル(一般名:グリコピロニウム臭化物/インダカテロールマレイン酸塩)

#### 〈長時間作用性吸入気管支拡張配合剤〉

アルミシートの両端に切り込み加工、アルミシートを従来品より広く剥がせるように接着使用の変更

### ◎ザイボックス注射液 600mg(一般名:リネゾリド)〈オキサゾリジノン系合成抗菌剤〉

アルミ袋の表示をシール貼りから直接印字に変更、

### ◎ジェイゾロフト錠25mg(一般名:塩酸セルトラリン)〈選択的セロトニン再取り込み阻害剤〉

個装箱の表示変更

### ◎セファメジンα注射液0.5g(一般名:セファゾリンナトリウム水和物)〈合成セファロスポリン製剤〉

個装箱とバイアルラベルのデザイン変更

### ◎トルツ皮下注80mgオートインジェクター(一般名:イキセキズマブ(遺伝子組換え))

#### 〈ヒト化抗ヒトIL-17Aモノクローナル抗体製剤〉

包装箱とラベルのデザイン変更

### ◎ノイロビタン配合錠(一般名:オクトチアミン、リボフラビン、ピリドキシン塩酸塩、シアノコバラミン)〈混合ビタミン剤〉

包装のデザイン変更

### ◎プレベナー13水性懸濁注(一般名:沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン(無毒性変異ジフテリア毒素結合体))

#### 〈細菌ワクチン類〉

個装箱の開封方法を改良しシリンジを取り出しやすい形状に変更、個装箱のデザイン変更

### ◎マイトマイシン注用2mg、10mg(一般名:マイトマイシンC)〈抗悪性腫瘍剤〉

ラベルのデザイン変更、キャップの天面シール・色変更、ゴム栓の色・穿刺部位の仕様変更、

個装箱のデザイン・中枠の形状変更

### ◎ミコナゾール硝酸塩クリーム1%「YD」(一般名:ミコナゾール硝酸塩)〈抗真菌剤〉

ケースのサイズ・開封口の形状変更

### ◎ミルリノン注22.5mg「タカタ」(一般名:ミルリノン)〈急性心不全治療剤〉

ラベルのデザイン変更、個装箱のサイズ・紙質変更、外袋の開封方法・サイズ変更

### ◎ラシックス注100mg(一般名:フロセミド)〈利尿剤〉

個装箱の開封口の封かん方法変更

### ◎ラスリテック点滴静注用1.5mg(一般名:ラスブリカーゼ(遺伝子組換え))

#### 〈がん化学療法用尿酸分解酵素製剤〉※緊急購入薬

添付溶解液のアンブルをワンポイントカットタイプへ変更

### ◎レミッチOD錠2.5μg(一般名:ナルフラフィン塩酸塩)〈経口そう痒症改善剤〉

個装箱のサイズ・封かん仕様・デザイン変更、アルミピローのデザイン変更

### ◎ロコアテープ(一般名:エスフルルピプロフェン)〈経皮吸収型鎮痛消炎剤〉

個装箱の開封口形状・封かんテープを改ざん防止テープへ変更

## 吸入用カプセルの誤飲防止に関するお願い

ブリーズヘラー使用患者において吸入用カプセルを誤飲する事例が報告されています。吸入用カプセルは吸入薬であり、飲み薬ではないため決して内服しないようご留意をお願いします。

(参考) 当院採用の吸入用カプセル：ウルティプロ吸入用カプセル、オンブレス吸入用カプセル

## 医薬品・医療機器等安全性情報 No. 353

### ★データベースを利用した小児用医薬品の情報収集と提供の取り組み

小児に対しての医薬品の使用にあたっては、適切な用法・用量等に関する情報が少なく、適正使用のため、その使用実績等の情報が医療現場からも求められている現状です。こうした状況を背景に、国立成育医療研究センターにおいて、小児に用いられる医薬品の安全性情報収集・評価システムの確立を目的としたデータベースを整備する事業を行っているため、その概要について紹介します。

### ★重要な副作用等に関する情報

以下の医薬品の使用上の注意のうち、重要な副作用等について改訂(追加)したので内容を紹介します。

#### ◎ペムプロリズマブ(商品名:キイトルーダ点滴静注20mg、100mg) <その他の腫瘍用薬>※20mgは緊急購入薬

【重要な基本的注意】AST (GOT) , ALT (GPT) ,  $\gamma$ -GTP, A1-P, ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害, 硬化性胆管炎があらわれることがあるので, 定期的に肝機能検査を行い, 患者の状態を十分に観察すること。

【重大な副作用】肝機能障害, 肝炎, 硬化性胆管炎: AST (GOT) , ALT (GPT) ,  $\gamma$ -GTP, A1-P, ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害, 肝炎, 硬化性胆管炎があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には, 本剤の投与中止等の適切な処置を行うこと。

※硬化性胆管炎関連症例: 3例 (うち死亡0例) (平成26年4月~平成30年3月)

医薬品・医療機器等安全性情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ (<http://www.pmda.go.jp/>) 又は厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/>) から確認可能。

## オーダー中止のお知らせ

オーダー中止日	薬剤名	理由
2018. 6. 4	アレジオン錠 20mg	アメナリーフ錠 200mg 採用のため
	人工涙液マイティア点眼 5mL	アイファガン点眼液 0.1%採用のため

## 「エピペン注射液0.15mg/0.3mg」供給に関する経過報告

アナフィラキシー補助治療剤「エピペン注射液 0.15 mg/0.3 mg」において、海外製造元からの出荷遅延による供給不足に対して、2018年2月より、処方制限等ご対応頂いておりました。このたび、「エピペン 0.15 mg」につきましては、供給不足が解消されましたので、お知らせします。一方、「エピペン 0.3 mg」の処方ならび交換につきましては、引き続き制限して頂きますようお願いいたします。